

自然観察路（生物多様性のみち）整備について

三宅 隆



間伐材の調達



作業前のミーティング

昨年 10 月に、ミュージアムに提案した、旧静岡南高の散策路活用について、ミュージアム開館 1 周年記念日 (3 月 26 日) に利用開始を目指して実施されることとなりました。

まず、下準備として階段の土止めに使用する間伐材の丸太の確保が必要となり、静岡市の中山間地振興課からの紹介で、静岡市林業研究会会長の小林誠司氏所有の山林から、無償で頂けるとなり、NPO 関係者で、郊外の山林まで取りに行きました。その後、一部を半丸太に製材してもらい、実施の準備が整い、12 月 19 日 (月) より作業を開始しました。

ミュージアムからの呼びかけに、NPO 職員はもちろん、県職員、サポーター、サービススタッフ、インタープリターなど多くの方が有志で参加してくれ、総勢 25 名で開始となりました。まず、階段づくりのための資材運びから始め、2 時間ほど汗を流しました。

私がなによりうれしかったのは、ミュージアムの運営に関わる色々なセクションの方々が、休館日にも関わらず、ボランティアで参加して一緒に活動してくれたことでした。今まで、同じ館内にいても、名前も知らず、軽く挨拶する程度でしたが、このことで、少し結束が強まったように感じました。

次の作業は 12 月 23 日 (祝)、散策路の途中に、道が大きく崩壊した場所があり、どのようにするかが難題だったのですが、ここに丸太橋を架けることとしました。そばに立っている、ヒノキの木を切り倒し、利用することとしたのですが、素人では立木の伐採は難しく、静岡市林業研究会のプロの有志が手伝ってくださり、立派な橋がかけられました。

その後は、ほぼ毎週月曜日の休館日に、20 名以上の方々が作業に携わり、階段土止め、土運び、



階段作り

植栽伐採、竹林伐採と作業は順調に進みました。まさに、数は力なり。予想以上に整備が進み、何とか 1 周年には開設できる見通しとなりました。また、伐採した竹の処理について、太い竹は「竹炭」に利用するため引き取ってもらい、細い竹は、静岡市環境創造課のご厚意により、竹破砕機を借用し、チップや粉末にして、堆肥として活用することを考えています。

なお、この散策路の名称は、自然観察路「生物多様性のみち」となりました。

完成後の自然観察路の活用ですが、まず、来館者を対象に、指導員の案内のもと、植物や昆虫などの自然観察会を定期的開催することが考えられます。

さらに、生物多様性を理解してもらうようなネームプレートの設置、チョウの食草となる植物の植栽、カブトムシなど甲虫の集まるクヌギなどの木の植樹、また植物園の要素も取り入れられたらと、構想は広がります。

道ができた後も定期的な管理は絶対必要です。安全に観察できるよう整備は続けなければなりません。

また、専門家による、動植物の調査を実施して、リスト作りも必要です。今後も沢山の作業が待っています。